

の結果、被験者の解答速度が向上した。

文の意味が通っているかを判断する別の課題では、同様の刺激を加えても被験者に大きな変化は生じなかった。文法課題でも脳の違う場所を磁気刺激した場合は反応速度は変わらなかった。

酒井助教授らはこれまで、文法課題をこなすときブローカ野が活発に働くことなどを突き止めていた。ブローカ野の活動が文法処理に直接かわっていることは確定していなかった。

研究成果は、米科学誌ニューロンの最新号に掲載された。

脳の「文法中枢」特定

磁気刺激、速く課題処理

東大など

東京大学と東京警察病院などのグループは、脳で文法処理をつかさどる場所を突き止めた。磁気

刺激でこの部分の働きを高めると、文法課題を素早くこなせるようになった

たという。文法を理解する脳機能の解明につながり、語学教育にも生かせると期待している。

東大の酒井邦嘉・助教授らは、経頭が磁気刺激法という技術を利用

した。「ゆきを・さわる」「ゆきを・つもる」などの文が文法的に正しいかどうかを判断する作業に

合わせ、脳の前方（前頭葉）にあるブローカ野と

いう部位を刺激した。そ